

## 奥秩父 入川金山沢大荒川谷

大濱

【日時】 2014年8月15日（金）～16日（土）

【メンバー】 L大濱、福永

今年のお盆は、全国各地で大荒れの天気。金～土曜の2日間は関東のみが比較的安定しているので、転進先を奥秩父に絞った。金山沢～大荒川谷は水に浸かる場面も多く、盛夏のこの時期がベストシーズン。今回を逃したら、今後なかなか行く機会もないかもしれないと話し合い、お盆休み真っ只中の木曜夜、蒸し暑い東京を出発しました。

8月15日（金）曇り時々晴れ

7:00 翌日のことを考えて、雁坂峠登山口付近に駐車。そこから川又を経て、林道～軌道跡を赤沢谷出合までてくてく歩く。今年は2人ともものんびり山行が多かったため、長いアプローチに、2人で分けた共同装備がずしりと応える。

8:40 赤沢谷出合到着。大休憩をして、9:00に入渓。入川本流は流れが強いため、渡渉にいちいち手間取る。深い淵は泳ぐ気になれずに巻くが、皆が泳いで突破しているためか、踏み跡は見当たらない。秩父独特のフワフワ脆い足元に緊張を強いられた。金山



沢出合まで林道を歩いてしまおうかと思ったりもしたが、要所々々で福永さんが名ばかりリーダーをサポートして下さるので、もう嫌ですとは言い出せず。高巻くたびに数十m上にあるはずの林道を見上げるのを止め、諦めて本流遡行に専念した。

高巻き時は10mのお助けザイルが活躍し、5m高さまでなんとかクライムダウンしてから、懸垂で沢底に戻る。ジャンプ渡渉は福永さんに先行して頂き、スリングで確保してもらって飛ぶ。激流（私にはそう見えました）を飛び越えるのは怖かったです...

す...

13:00 ようやく金山沢出合に到着。短い距離にずいぶんと時間がかかってしまった。もうお腹一杯だけど、仕方ないので先に進む。

金山沢に入って水圧は和らいだけれど、相変わらず釜やら淵やらが多い。しかも、入川では信頼できたラバーソールが全く効かなくなりました。持っていた遡行図にはナメマークがついていたが、しぶきを上げる水流の横にヌメヌメの岩が続き、ちっとも癒されない。

ゴンザの滝は左岸に快適な巻き道がついていた。続くゴルジュは中を遡行できるらしいが、入り口から奥を見てあっさりと巻きを選択。沢底へは、先ほどと同じくお助けを使用し、5m懸垂で戻った。



すぐ小荒川谷出合に着くはずなのに、なかなか二俣が出てこない。右岸に2人分の平地（要プチ工事）を見つけ、17:45に行動終了。日没に追われながら、いつになくテキパキと働いたおかげで、完全に暗くなる頃にはいつも通りに焚火を囲むことができた。



8月16日（土）曇り時々晴れ、のち雷雨  
6:30 出発。GPSで小荒川谷に入っていることが分かり、100m程下降すると明瞭な二俣が現れた。幕場見学に数m沢筋を離れていたときに見逃したらしい。気を取り直して大荒川谷を遡行する。

大荒川谷は、苔に覆われていた。緑色の岩の上を水が白糸のように流れていて、とても綺麗。奥入瀬っばいね！と話しながら歩く（2人とも奥入瀬に行ったことはない）。最初に出てくる10mの大滝は右から巻く。3条滝の後ろに控える8m滝は、

上部に信頼できるホールドがなかったので、後続にはザイルを出した。もう少し水が少ないときは、水流近くを快適に登れるかも。その後も10m級の滝が出てくるが、いずれもフリーで登れる。

奥の二俣を左に入ると、倒木が谷を埋め尽くしていた。障害物競争さながらに、跨いだり潜ったりで進むと、やがて伏流となりガレ地帯に突入。1時間程モクモクと登り続け、12:20に登山道に出た。

12:40 2人で遡行できた達成感にしばし浸るが、下山CTは5.5時間と長いのでのんびりもしてられない。雁坂嶺からは、廃道となった孫四郎峠方面の踏跡を辿り、雁坂峠はカットする。踏跡はすぐに不明瞭になり、尾根から外れないように神経を使った。300m程を下り、右手に現れるガレを下って登山道に復帰。一応はショートカットになった（ような気がする）。そこからは歩き易い登山道を、雨の中駆け下る。川又登山道入り口には16:40に到着した。充実した2日間でした！



#### 【行程】

8/15 川又登山口(7:00)～赤沢谷出合(8:40/9:00)～金山沢出合(13:00)～幕場(17:45)

8/16 幕場(6:30)～大荒川谷出合(6:50)～登山道(12:20/12:40)～川又登山口(16:40)

【地形図】 中津峡、雁坂峠

【グレード】 入川から通しで2級上

